

ごあいさつ

平素より大阪信用金庫をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

当金庫の経営内容をご理解いただくために、ディスクロージャー「DAISHIN DISCLOSURE 2025 ～だいしんの現況～」を作成いたしました。

経営方針や業績、地域貢献活動などを分かりやすくご案内しておりますので、ぜひご覧ください。

2024年度の日本では、長期に亘ったコロナ禍からの脱却とインバウンド需要の回復により景気が好転することが期待されましたが、その足取りは重く、先の見えない長いトンネルの中で一進一退を続けました。また、日本銀行の金利政策により「金利のある世界」がようやく到来しましたが、人口減少や後継者不足など構造的な課題が山積しています。

長期化する不安定な国際情勢を背景に物価高は止まるところを知らず、十分に販売価格に転嫁できない中小企業では、収益に大きな打撃を受けました。また人手不足はますます深刻化し、従業員の流出が事業継続に大きな影響を及ぼすため、賃上げに止む無く取り組まざるを得ず、経営環境は依然として厳しい情勢が続いています。

このような中、当金庫は信用金庫の本領を発揮し、ビジネスマッチングをはじめ、補助金申請・人材雇用など、数多くの課題に伴走支援で取り組みました。若い力による地域課題解決に向けた「自主創造」による活動もさらに一歩進め、各営業店において数多くの新しい取り組みを展開しています。また、中小企業においても大きな経営課題の一つとなった「脱炭素」への啓蒙も継続して取り組んでいます。

その中でも、ベトナム人金庫職員による外国人材採用・就業定着支援を目的とした「だいしんO-Musubiクラブ」の活動や、ベトナムへの「高度人材採用の旅」の実施は、外国人材と共生する社会の実現に向けた活動として高く評価され、第27回「信用金庫社会貢献賞」において「地域活性化しんきん運動・優秀賞」を受賞しました。

また、4月に開幕した「大阪・関西万博」には大阪商工会議所と共同でリポーンチャレンジ事業に取り組み、大阪ヘルスケアパビリオンにおいて、10月7日から13日の間展示されます。

さらに11月には、地域の風景を取り入れ、町とのつながりを体現する外観を持ち、災害時の避難場所としても機能する新本店ビルのグランドオープンを予定しております。

2024年度の業績は、期末の預金残高が2兆5,353億円、貸出金残高が1兆5,863億円となり、業務純益は72億円、当期純利益は73億円、自己資本比率は14.39%となりました。

これもひとえにみなさまの長年にわたるご愛顧・ご支援の賜物と深く感謝しております。

これからも、当金庫は基本方針に掲げる「堅実経営」と「信義誠実」の原則を堅持しつつ、新しい時代の変化も積極的に取り入れる不易流行の精神で、お客さまや地域の課題解決に向け役職員が全力で取り組んでまいります。

これからも地域金融機関として、「地域のみなさまに信頼される信用金庫」を目指します。今後ともご支援、ご愛顧くださいますようお願い申し上げます。

2025年7月

理事長 高井 嘉津義

